



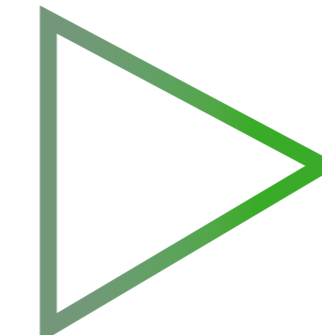
地域でつくる国際キャンパスタウン

Building an international campus town with the community



つくばエクスプレス沿線で大規模開発が進む柏の葉エリアでは、県・市・大学が共同で「柏の葉国際キャンパスタウン構想」を掲げ、公・民・学の連携拠点であるUDCK (Urban Design Center Kashiwa-no-ha) がその推進役となって、国際学術研究都市・次世代環境都市づくりを展開しています。東京大学の活動として、社会連携を通じた地域課題解決の実証的試みがなされており、駅前のサテライト・キャンパスは、地域社会とのコミュニケーション視点を目指しています。一方、公共や民間の活動としては、学生や研究者の生活を支える医療・教育・公共サービスや居住機能の充実、並びに各機能の外国人対応も進められつつあります。今後は、さらに公・民・学の連携を強化し、クリエイティブで質の高い居住環境の形成、あらゆる生活の場面における英語対応の強化、空港アクセスの強化や交通利便性の向上など、世界中から優秀な人材が集まる良質なキャンパス環境を、地域ぐるみで実現することを目指します。

公 柏市・千葉県
柏市まちづくり公社等



学
東京大学・千葉大学

民 企業群・TX
柏商工会議所・ふるさと協議会

Message

東京大学を先導する 柏キャンパス

東京大学では、キャンパス計画大綱が策定され、総合的教育改革が本格的に進められていく時期を迎えている。平成26年3月の大学院教育検討会議においては、大学院教育強化のアクションプランが議論され、「①柏地区の研究所群のリソースを活用した大学院教育強化。大学院学生の地理的条件を配慮した学生支援や遠隔講義施設の拡充等。②新領域創成科学研究科の大学院教育の抜本的強化支援。特別WGを設け具体的施策を検討。」がアクションリストに掲げられている。そもそも、東京大学の中期目標の一つは、「大学院課程を通じ、未踏の領域に果敢に挑戦する開拓者精神に富み国際的に活躍できる人材を育成し、彼らが国際化を推進、国際協力関係を醸成し、人類社会に貢献する」ことである。また、学部教育改革においては、初年次教育における「大学での学び」の理解や、学生の多様な価値観醸成に向けた、いわゆる“early exposure”の重要性が強く謳われている。本「柏地区整備推進構想」は、このような状況を踏まえて、東京大学の未来の姿を先導する実験キャンパスとして、柏地区キャンパスの整備推進方策の構築に資することを念頭に置き、全学の合意を得ながらその具体的な施策を策定していくための基礎資料として取りまとめたものである。柏地区の持つ特徴である先端性、国際性、社会連携をさらに展開し、卓越した大学院、新しい国際教育研究の場としての学住一体型国際キャンパス、実証的産学社会連携拠点の整備に向け、今後10年程度で実現する可能性を持った計画として示すものである。本構想が、将来にわたって継続して行われるべき全学改革の一翼を担い、そのブラッシュ・アップにも寄与することを期待する。

東京大学総長 濱田純一



▷▷▷ お問い合わせ

東京大学柏地区共通事務センター 総務・広報係

〒277-8561 千葉県柏市柏の葉5-1-5
TEL:04-7136-3200 E-mail: kashiwa-info@kashiwa.u-tokyo.ac.jp
<http://www.kashiwa.u-tokyo.ac.jp>

TRIANGLE
202X

柏地区構想検討ワーキンググループ

柏キャンパスは、 新たな学問領域 創造の場。

Kashiwa Campus, a space for the academic frontier

Origins

本郷

「三極構造の重心」。伝統的な教育研究の型を基盤としつつ、それ自身を発展させる教育研究を中心的な任務とする。

駒場

「開かれた大学」の理念を具現。異なるディシプリンを持つ組織がそれぞれの固有性を保ちながら、相互の知的協働作用および社会の広範かつ多様な交流を通じて、前期課程教育の新たな展開と高等研究の活性化を図る。



柏

Kashiwa

新しい学問分野の創成

近年の学問の急速な発展および社会状況の激変に対応して、伝統的な学問体系・組織には取らざるに基礎的課題群を、新たな学問領域を通じて教育研究する。

「東京大学キャンパス計画大綱」(2014年)において、柏キャンパスは、本郷、駒場キャンパスとともに構成される三極の一つとして位置づけられています。学融合の精神のもと、メインキャンパス、柏IIキャンパス、サテライト・キャンパスが連携することで、三つの教育研究理念である「世界最先端研究の推進と新しい学問領域の創造」、「学住一体型の国際連携・卓越型国際教育研究拠点の形成」、「地域連携・社会連携推進による実証」の実現を目指しています。

また、大学院教育の強化・学部教育における多様な価値観醸成を念頭に置き、柏キャンパスには、先端性・国際性・学住接近キャンパスの実現・地域社会との連携による大学機能の発揮といった観点から、全学の中で先導的な役割を果たせるよう、継続した努力と整備の推進が求められています。



柏キャンパス

学融合の中核を担う世界最先端研究拠点。独立研究科である大学院新領域創成科学研究科と東京大学国際高等研究所・附置研究所・センター群に加え、東京大学の情報インフラ整備拠点としての柏図書館を配置。



柏IIキャンパス

学生および研究者の日常の活動を支える、運動・リフレッシュの場および学住近接の国際生活拠点。生涯スポーツ健康科学研究センター、インターナショナルロッジ・柏ロッジが所在。



柏の葉キャンパス 駅前サテライト

柏の葉キャンパス駅前の立地を最大限に活用した、社会実験の実証拠点。柏地域の住民・企業と協力し研究成果の事業化を推進するフューチャーセンター推進機構、公・民・学連携によるまちづくり拠点として東京大学が主導する UDCK (Urban Design Center Kashiwa-no-ha) が所在。

先進的教育研究の拠点へ

世界最先端の研究群のリソースを活かし、これまで培った学融合環境の先鋭化を進めることで、東京大学の総合的教育改革に強く貢献しうる卓越な国際大学院を目指しています。周辺地域との連携、柏IIキャンパスの宿泊施設拡充に加え、メインキャンパスでも学生会館やアメニティ施設の整備を計画。世界から優秀な研究者・学生が集い、文化の多様性を受け入れ、活発な交流を行う優秀な人材育成のための教育環境づくりも進行。また、さらなる拡充を容易とするメインキャンパスは、世界最先端研究の推進のための大型施設の効率よい配置・運用が可能に。さらに、研究科・研究所・センターの各部局の将来構想に加え、学内部局・施設の新たな誘致も可能となっています。たとえば、全学リサーチcommonsとしてのアーカイブ機能、オープンデータの蓄積から提供までができ、人材養成機能も併せ持つ柏図書館や、スーパーコンピュータ拠点の整備は、キャンパス内のみならず、東京大学のキャンパス間連携も一層深化させると期待されます。



Pioneering

柏キャンパスが先導する、東大の近未来。

TRIANGLE 202X

Innovative

実証的社会連携推進の拠点へ

柏キャンパスでは、地域連携に基づく社会実験を積極的に実践。また、柏の葉地区では、大学とまちの融合による「国際学術研究都市・次世代環境都市」を目指した基盤整備や先導的事業が推進されています。その成果をさらに発展させ、学住一体型キャンパスの機能を活かしつつ、社会連携を通じた実証的研究分野の創出を目指します。さらに、社会連携による実証的研究を教育にも取り込むことにより、力強い人格形成も目指しています。



国際キャンパスの拠点へ

世界から優秀な研究者や学生が集い、快適な研究生活を送ることのできる国際生活拠点となるよう、柏キャンパスの整備が進められています。柏IIキャンパスには、社会生活から先端研究までの幅広い課題に異分野の人材が取り組むことを通し、最高水準の研究成果を生み出す環境を整備していきます。東大国際学生村は、柏地区の教員、研究者らによる少人数の全人的総合教育を中核とし、学住一体のメリットを最大限に活用する新しい教育体制の構築を目指しています。また、大学院生および学部前期課程学生・国内外他大学の極めて優秀な学生を最先端研究に参画させることを通して、徹底した学力・研究力・国際力の涵養を行う国際エリート養成プログラムを実施。その第一段階として中核施設である総合学寮棟を建設。海外の先端研究拠点を結ぶ高度情報通信網をはじめ、セミナー室、図書室、食堂、ラウンジ、コミュニティ施設、ショップ・レストラン等商業施設を含む、良質な住環境と多言語による都市機能を実現していきます。



Global

■卓越大学院

知的冒険と新たな学問フロンティア創成に邁進できる人材輩出のために、研究所群との強い連携を通じ、世界最先端研究と豊かな国際性を兼ね備えた統合的な教育研究環境作りを推進します。その実現に向けて、大型施設等の継続的運用・整備を行います。

■リサーチcommonsとしての図書館

研究拠点を支えるリサーチcommonsとして柏図書館を発展させます。自動化書庫、貴重書保存書庫棟、デジタル・キュレーション・トレーニングセンター等の整備を通して、図書館機能とデジタルデータのマネジメント機能を併せ持つ新たな姿へと発展させていきます。

■事務サービスと生活インフラの国際化

国際キャンパスを支える、事務体制の国際化を構築。留学生や海外研究者が快適に研究生活を送れるよう、入試やキャンパス内の各種手続き、生活支援等を英語で提供。併せて、国際学術研究都市として教育、交通、医療など都市サービスの国際対応を実現します。

New Platform for Intellectual Creativity

世界が切磋琢磨する知のプラットフォームへ

東京大学の将来構想を先導する実験キャンパスとして柏地区の整備を行うことにより、「先進性」「国際性」「実証性」を兼ね備えた、新しい国際教育研究の場を構築していきます。学住一体型キャンパスを持つ先進的な教育研究機能と丁寧な学生支援機能を活かしていくことで、世界中から優秀な学生・研究者が集い、互いに切磋琢磨するプラットフォームとなることが期待されます。この新たなプラットフォームは、東京大学のあるべき未来像を具現化するものです。

最先端研究拠点

- 研究科・学部
- 研究所群
- 図書館・大型施設

卓越大学院

- スーパーグローバル大学創成

生活拠点

- 国際学生村
- 事務、研究支援、生活支援の国際化

社会連携・国際学術拠点都市

- フューチャーセンター、UDCK

■国際学生村

柏IIキャンパスに、学住近接の東大国際学生村を創設。学融合拠点の生活基盤として、国内外の研究者と学生が集住しつつ教育・研究活動を行える日本型カレッジ制を導入。教育・宿泊・アメニティ施設が一体化した交流拠点を完備させます。

■社会国際連携

駅前サテライト・キャンパスの立地環境を活かし、オープンイノベーションの推進にふさわしい機能・空間を構築します。最先端の情報エネルギー基盤が充実した柏の葉スマートシティなどを社会実験フィールドとして、国際的な視点から社会連携を推進します。

東大は革新を続けます

Progress